

- ・ 広報ほか活動報告
- ・ 新年会開催要領

第65回総会開催

思い出を語り、木遣りを歌い、大いに盛り上がりました

6月30日 東京グリーンパレス

第65回東京片貝会総会は、片貝町からのご来賓にもご臨席いただき、出席者計87名で賑やかに行われました。

事務局長の藤塚伸雄の開催宣言の後、会長の安達亮一がご挨拶を申し上げました。

引き続き会計・会計監査・広報の報告があり、母校を励ます会より図書費を贈呈いたしました。その後、ご来賓の皆様をご紹介します、小千谷市市長の宮崎悦男様と片貝

町協議会会長の矢野幹雄様のご挨拶を頂きました。

そして陽光会の藤塚悟様の乾杯の音頭に引き続いて懇親会が行われ、思い出を語りました。また、懇親会の中で、今秋の片貝まつりで記念行事を迎える各同級会のご紹介と伝統芸能保存会の皆様方の演奏が行われ、最後には会員並びにご来賓の皆様全員で木遣りを高らかに歌いました。

【会員出席者】(敬称略)

(昭和21～39年卒)

荒木ムツ、佐藤祐一(27)、黒崎 勝、吉原 武夫(28)、大矢 佐知子、藤塚 悟(31)、安達 弘(33)、本田 秀幸、松井 京子(37)、小野塚 和夫、芝 強(38)

(昭和40～63年卒)

相崎 俊夫(40)、安達 仁、安達 徹、阿部 清、栗原知子、小林和弘、佐藤 誠、本田 勇、山口 光夫(41)、安達 裕子、安達 亮一、早川 芳枝(42)、内藤 富美子(43)、藤塚 伸雄(48)、目黒 栄(49)、安達 智子、徳永隆浩(52)、松山朱実、相崎達也、湊 邦子(53)、小野塚括吉、堀井ひとみ(54)、佐藤 潤(55)、相崎清輝(57)、友田 啓(58)、白石知子、浅田友則、飯尾真由美(60)、竹原浩子(63)



東京片貝会の花火奉納

今年より9月第2金曜・土曜の開催となった片貝まつりの2日目14日昼の部で、本会の奉納による尺玉を打ち揚げました。

帰省した会員に地元で応援してくれる仲間が加わり、会員の願いを込めての木遣りをお立ち台で賑やかに歌いながら打ち揚げを見守りました。

にじ会 出合い旅

11月13・14日に越後湯沢温泉で、にじ会の初の出合い旅が行われました。

参加は、男子16名女子11名の合計27名でした。

古希の奉納花火以来の集まりで、小中学校時代の思い出話などで盛り上がりました。



片貝中学校 にじ会 令和6年11月13日

【東京片貝会へご寄付】(令和6年4～10月)

下記の方々から会へのご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。(敬称略)

阿部修次(21)、石橋行夫(27)、安達 隆(28)、横田房枝(29)、小野塚清、後藤恵美子、平石和子(31)、安達 弘(33)、川合かつ枝、佐藤篤司、本田秀幸、松井京子(37)、芝 強(38)、安達 徹、阿部 清(41)、安達亮一、勝又一司(42)、内藤富美子(43)、黒崎 修(45)、藤塚伸雄(48)、徳永隆浩(52)、松山朱実(53)、安達良喜、小野塚括吉、堀井ひとみ(54)、山口昌幸(55)、吉田貴裕(56)、相崎清輝(57)、友田 啓(58)、浅田友則(60)、名塚孝雄(H1)、根本 忠(片貝醫院)

先掛三号 祝片貝まつり
片貝の発展と皆様の健康祈願
東京片貝会尺

——食堂・会席——

美好亭

小千谷市片貝町6505
TEL 0258(84)2107
FAX 0258(84)3334

医療法人社団 紅鶴会
 片貝醫院

人財の見える化で
経営をサポートします

藤塚事務所
代表 藤塚伸雄



T&F 045-211-5131
詳しくは
Webサイトにて

私たちは、お客様のハコぶと演出、
そして想いをかたちにする集団です！

段ボール・プラ段・花火玉皮…

フーゲツ 検索

段ボール製家具・遊具…

段屋風月 検索

小千谷市片貝町2489-1
電話0258-84-4141

～第42回母校を励ます会 教育講演会～

「人と人を繋ぐ言語聴覚士としての私と日本赤十字社の活動」 開催

五十嵐 貴子さん 第43回(平成2年)片中卒 平成会
令和6年10月11日(金) 片貝中学校にて

講演骨子

五十嵐さんはどうしても物ごとを覚えにくい人や認知症、記憶喪失の人たちを助け支える言語聴覚士です。家族の難病でのリハビリや言葉が思うように出なくなった人の話から、話す、聞く、食べることなどに苦勞する人たちの助けになりたいと難しい国家試験をみごと突破してこの仕事に就きました。

多くの人が毎日さりげなく会話をするのは違って思うに任せることができません。ともすればいら立ちを隠せない患者さんに対して、優しく自然な笑顔で、安心してもらいながら手助けしていくことが大事だと五十嵐さんは語ります。

五十嵐さんが活動する日本赤十字社での仲間、ウクライナでの救助や人道支援に取り組む平野亨子さんの紹介もありました。平野さんは言葉の違いを乗り越えて理学療法士の資格を得て、苦しい生活を余儀なくされている派遣先の人びとに向き合っています。空爆やサイレンに日々脅かされる現地の人びととともに過ごす中、日本の穏やかな日常に思いをいたしつつ遠くの人びとのことも支援してほしいとのメッセージが伝えられました。

家族や仲間との結びつきの大切さは五十嵐さんも同じです。お互い励まし合いながら「自分はつづくよどこまでも」を合言葉に、得意なこと、好きなことを見つけていってほしい、積み重ねを大事にして、またつらいことがあってもくじけず歩んでいってほしいと生徒児童に温かく語りかけて講演を締めくくりました。



【母校を励ます会基金ご協力者名】

(敬称略) (令和6年4～10月)

阿部修次(21)、豊島文枝、友田善智(22)、長岡利夫(23)、石橋行夫、荒木ムツ、佐藤祐一(27)、安達 隆、黒崎 勝、吉原武夫(28)、吉井 均、横田房枝(29)、後藤恵美子、小野塚清、小林昌子、平石和子(31)、諸我時夫(32)、安達 弘(33)、川合かつ枝、大矢とらじ、佐藤篤司、本田秀幸、松井京子(37)、小野塚和夫(38)、天野八重子、谷内 弘、佐藤正志(39)、太刀川和雄、相崎俊夫(40)、阿部 清、山口光夫、安達 仁、安達徹(41)、勝又一司、安達亮一(42)、内藤富美子(43)、高野昭人(47)、深江久美子(48)、徳永隆浩(52)、相崎達也、松山朱実(53)、安達良喜、小野塚浩吉(54)、佐藤 潤(55)、相崎清輝(57)、友田 啓(58)、飯尾真由美(60)、名塚孝雄(61)、黒崎哲郎、山口巧片貝

新理事よりひと言

■輝友会 飯尾 真由美さん

既に理事を務めている同級生からの声かけで今年の新年会から参加させて頂いています。上京から長くなりましたがここで皆さんとお話していると、片貝をとっても身近に感じ温かい気持ちになります。

ホームページからたどれる過去の会報を見ると同級生の中学生の頃の文章があ

講演を終えて

五十嵐 貴子さん

この度は東京片貝会教育講演会に参加させて頂き誠にありがとうございました。当日は澄み渡る青空で、生徒児童たちはそれに勝る澄んだ瞳で私の講演を聞いて下さいました。

言語聴覚士という仕事は、まだ認知度が低い業務であると私自身も認識しています。華やかさとは程遠く、どちらかというと生活に密着した仕事です。しかし、必要な人に自身の知識と経験を駆使して尽力できる専門性の高い仕事です。患者さんと時に涙し、時に喜び、人生の一部に関わらせて頂ける事を嬉しく思います。先日頂いた感想文の中に、自分も言語聴覚士を目指したい、その様に展望を持って貰えた事を知りとても嬉しく思いました。

この様な貴重な経験をさせて頂き、準備にあたってくださった片貝中学校の先生方、母校を励ます会の方々、平成会の仲間へ心より感謝を申し上げますとともに、会員や片貝の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

ったりで、私たちは子どもの頃から東京片貝会と繋がっていたのだと実感します。

これまで先輩方の故郷を愛する想いに甘えてきたところがありましたが、これからは自分の想いとして皆さんと共有したいです。よろしく願いいたします。

■飛翔会 竹原 浩子さん

来年五十を迎える年となり、片貝を出てからの生活も長くなりました。その中で、同郷者の集いの場、故郷を支える場として、東京片貝会の存在に大きなものを感じています。微力ではありますが、力添えできればと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

【次号以降でも新理事の紹介予定】

片貝総合センターの『円筒埴輪』は語る (第3回) 寄稿 若杉会 山口石根さん

前回記したように、特別な人物と認められて造営された墳墓の場所は高台が選ばれた。それが片貝の場合、今の小学校の敷地として削り取られた十三畑の先端部であったと思われる。

では朝廷に認められていた(または朝廷から派遣されていた)この古墳に埋葬された「高貴な人」とはどのような人物だったのだろうか。考えられることは一つ。我が片貝村は古くは「浅原荘大貝郷片貝村」などと呼ばれていたという。従って、その

高貴な人物とは浅原荘と呼ばれた荘園の管理者だったのではなかろうか。



やや時代が下るが平安時代後期の康平庚子三年(1060年)調製という「越後国地図」(注)の中に「浅原」という地名を見ることができる。ということはその頃も「浅原荘」の名で呼ばれていたということだろうか。【完】 写真=山口石根さん提供
(注)「長岡郷土史」第54号27ページの「越後平野形成」の項

ふるさと・は・今

令和 6 年 5 月より
令和 6 年 11 月まで

母校近況

■小学校 長井教頭先生

【スポーツフェスティバル】

「もみの木魂 全力をつくし 勝ち取れ！総合優勝」のスローガンの下、全校児童が赤組と白組に分かれ競技と応援で優勝を目指しました。全校種目「100枚カードめくり競争」を行いました。表は「赤」、裏が「白」のカードを使用し、赤組は赤のカードが多くなるように、白組は白のカードが多くなるようにめくり合いました。



【6年生 佐渡修学旅行】

今年度も、佐渡島で様々な体験活動を満喫してきました。小木湾でのたらい船体験では、漕いでも漕いでも前に進まなかったり、鼓童の太鼓体験では、自分の体よりも大きな太鼓等、いろいろな種類の太鼓を叩いたりすることができました。

【5年生 妙高自然教室】

妙高自然の家で、2日間に渡って宿泊体験をしてきました。1日目の昼食は野外炊事。午後の活動はクラスの絆を深める「妙高アドベンチャー」に取り組みました。2日目は、森の中の小川を探検する「源流探検」を行ないました。

【ありがとうもみの木】

(1面記事をご覧ください)

【校内マラソン記録会】

「グラウンド→十三畑→農道→スポセン→グラウンド」をコースにしたマラソン記録会。距離は1・2年生：1km、3・4年生：1.5km、5・6年生：2kmを走りました。保護者の応援を受けて、グラウンドから十三畑に上がる苦しい坂道も頑張って駆け上がりました。自分のめあてに向かって努力する姿に成長を感じました。

■中学校 皆川教頭先生

片貝まつりが終わり、暑さが少し和らいだ、9/24に体育祭を開催しました。スローガンは「共に創ろう～魅せろ！片中魂！感動のその先へ～」、赤軍と青軍に分かれても、互いに競い、励まし合いながら全校生徒で感動の体育祭を創り上げていきたいという思いが込められていました。このスローガンがプリントされたTシャツを全員が着て臨み、笑顔のあふれる大成功の体育祭を全校生徒で創り上げることができました。



秋の新人大会には、野球部、男子バスケットボール部、卓球部が出場しました。野球部は小千谷中、小千谷東中との3校で合同チームを組んでの出場でした。生徒数の減少に伴い、小千谷市でも部活動の地域連携・地域移行が今後進められていきます。

10/11には、東京片貝会教育講演会を開催していただきました。誠にありがとうございました。

(教育講演会の様子は3面記事をご覧ください)

町のできごと

■大地震の発生が指摘されている長岡平野西縁断層帯にある「片貝断層」の見学会が初めて仲使山で行われた。同地は仲使山墓地の近くにあり、土砂採取のため開発された場所。見学した人からは地層の色の違いや断層がはっきり確認できることに驚きの声があがった。

■市制施行70周年記念式典で、五之町の安達和弘さんが地方自治功労の市制施行70周年特別表彰を受賞した。

■第78回新潟県美術展覧会の結果が発表され、片貝町からは日本画で相崎重明さん、工芸で黒崎剛さん、写真で恩田美子さんと太刀川加代子さんが入選した。

■第29回にいがたねりんピックゲートボール大会が開催され、片貝クラブが3位となり、鳥取県で開催される全国大会の出場権を獲得した。メンバー(敬称略)は、安達博栄(五之町)、浅田實(同)、相崎修司(四之町)、相崎三津子(同)藤塚厚子(町裏)、五十嵐晴美(四之町)。

■佐藤佐平治の遺徳を伝えるイベント「祭」が片貝ふれあい公園(忍字亭庭園)で開催された。佐平治ゆかりの品物を集めた「忍展」も開かれ、約4,000人(主催者発表)の来場で賑わった。

■350年ほど前に出現した地蔵を大切にまつる「五之町地蔵様祭り」が8/24に五之町クラブ前で行われ

た。読経から始まり、午後7時からの演芸会では、神楽保存会による神楽舞、子供会によるよさこいなど多彩な催しが繰り広げられた。

■第44回小千谷市展が開催され、日本画で寺町の山口文子さんの作品「六月の満月」が新潟日報美術振興賞を受賞した。

■11/1、片貝中で新潟地方裁判所長岡支部の出前講義「模擬裁判」が開催され、3年生36人が学んだ。

会員訃報

大平アイ様(昭27若杉会)

編集後記

猛暑続きの夏が終わったら、秋を飛び越えてあつという間に寒くなりました。風邪など引かず、どうぞ良い新年をお迎えください。新年会で元氣な皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

広報担当 徳永・小林・
安達・相崎
news@tokyo-kataikaikai.net

◆—◆

創刊 昭和38年
年2回(6・12月)刊
発行 東京片貝会

東京片貝会報